

CX週間展望(4月4日～)

週間展望(4/4～4/10)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/4～4/10)

～ドル円～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「過去3回のスパイク・トップと2015年のトップを重ね合わせてみると、そろそろ戻り高値を付けて、いつ修正に入ってもおかしくない時間帯に向かっている。」としたが、先週のドル円は、日銀が長期国債の指値オペを実施、さらに29-31日の連続指値オペを実施すると表明。ドル円は日米金利差拡大観測で122円台から125円台まで上昇した。
- ただし、「悪い円安」が懸念される中、月末に黒田総裁が岸田総理大臣と会談したと伝わると、その後は買いは続かず、121円前半半まで調整安となった。その後、再び日銀が4-6月期の国債購入計画で増額や回数増加を発表すると、雇用統計待ちながら円安方向への動きとなった。

ドル円、再度の上値試し

- 先週末のドル円は、反発。3月の米雇用統計が労働市場の引き締まりを示す結果となり、米連邦準備理事会(FRB)の金融引き締め観測が強まった。
- 非農業部門雇用者数が前月比43万1000人増と市場予想(49万人増程度)を下回った。一方、過去2カ月分は上方修正された。労働参加率が上昇するなか、3月の失業率は3.6%と2月(3.8%)から低下し、市場予想(3.7%)も下回った。平均時給も前年同月比では市場予想以上に伸び、労働市場の堅調ぶりを示す結果となった。
- CFTC建玉明細(3/29現在)によると大口投機玉は、102,131枚の売り越し。前週(78,482枚の売り越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/4~4/10)

~ドル円~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- ここ数年のドル円の年間レンジを当てはめると、125円水準は天井感が意識される水準。FF金利先物市場が織り込む利上げ回数(0.25%の利上げ回数)は、2022年が約8.5回、仮に、来年までに0.25%の幅で約10.5回の利上げが順調に実施された場合、FF金利誘導目標は2.75%~3.00%を超え、FOMCメンバーが適切と考えるFF金利長期均衡水準(2.375%)を上回る。
- 米長期金利上昇に伴う円安ドル高は、125円台示現で一服となったが、次回米連邦公開市場委員会(FOMC)(5/3-4)にかけて、再度、125円を試す可能性は残る。FRBが注視する個人消費支出(PCE)価格指数の伸びは前年同月比6.4%と前月の6.0%から加速し、1982年1月以降で最も高くなっている。
- 6日に3月に開催されたFOMC議事要旨がある。バランスシート縮小に関する議論の内容などが明らかになり、タカ派的な内容の場合は、次回FOMCに向けての0.5%利上げ観測が高まり、ドル円をサポートする要因となりそうだ。
- FRB当局者やFOMCメンバーは利上げに積極的な姿勢を示しているのに対して、日銀は緩和姿勢を継続している。金融スタンスの違いから円売りドル買いを仕掛けやすい地合いでもある。一方、大口投機玉のドル円売り越しは、昨年11月9日時点以来の10万枚以上になった。短期的には過熱感も意識される水準。
- ロシアの独立系調査機関レバダセンターが3月に実施した調査で、プーチン大統領の支持率が83%と4年ぶりの高い水準。停戦絡みでユーロが反騰してくると、ユーロ主導で、ドル円が影響を受ける可能性も想定しておきたい。季節傾向から4月のドル円は、売り優勢な時間帯。GANNのアニバーサリーデート(変化が起こり易い日柄)も、4月~5月GWに集中する。
- 心理的節目125円の攻防が焦点。上値抵抗を受けるのか、乗せてレンジを切り上げていくと上げ加速も。5円程度の切り上がりは早い。

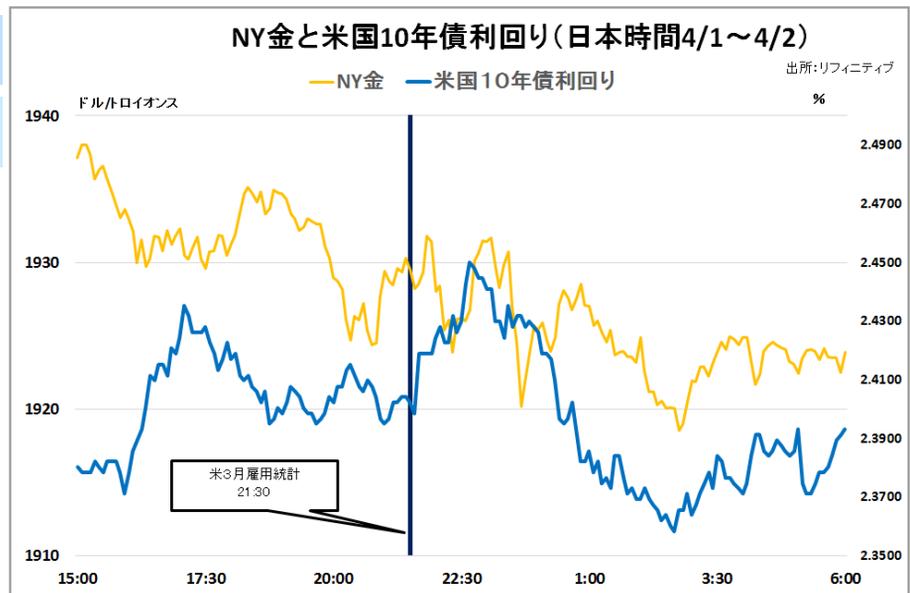
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/4~4/10)

~ 貴金属市場 (金 : GOLD) ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「NY金(週足)は、3月11日の週に付けた長い上ヒゲ高値が、目先の天井候補。心理的節目1900ドル~52週移動平均線が下値支持帯。一方、JPX金(週足)は、円安進行で上場高値更新。チャート形状は、NYが天井感が強いのに対して、JPX金の天井感は薄い。」とした。先週のNY金(6月限)は、ロシアとウクライナの停戦期待や原油安を受けて軟調となったが、停戦交渉で合意できず、先行き不透明感が出たことやインフレの高止まりを受けて押し目を買われ、レンジ内での動き。一方、JPX金先限は円安を受けて、上場来高値7731円(3/29)を付けた後、調整局面入り。

内外で値動きに差

- 先週末のNY金(6月限)は反落。3月米雇用統計で非農業部門雇用者数が前月より43万1000人増加し、堅調な伸びを示した。2月の雇用者数の増加幅は、当初発表の67万8000人から75万人へ上方改定され、失業率は3.6%と2020年2月以来、約2年ぶりの水準に改善となり、米長期金利の上昇、ドル高からNY金は一段安となった。前半で米労働市場の改善を受けたドル高の悪材料を織り込み、下げ幅を縮小したが、1930ドル台では戻り売りが待ち受け、中盤から後半は軟調に推移した。
- CFTC建玉明細(3/29現在)によると大口投機玉は、257,596枚の買い越し。前週(248,032枚の買い越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/4~4/10)

~ 貴金属市場 (金 : GOLD) ~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- NY金(週足)は、3月11日の週に付けた長い上ヒゲ高値が、目先の天井候補。心理的節目1900ドルが下値支持。停戦期待と、米大幅利上げ観測が、NY金の上値を抑えている一因。一方、JPX金(週足)は、円安進行で上場来高値更新。チャート形状は、NYが天井感が強いのにに対して、JPX金の天井感は薄い。
- NY金(6月限)は、終値ベースで、1900ドルを維持できなければ、2021年12月安値~2022年3月高値までの上昇に対する61.8%押し(1878ドル)~200日移動平均線への押し目も想定される。ただし、停戦合意なら金と相関の高いユーロが反発する可能性があることや、スタグフレーション(物価高と景気悪化の同時進行)リスクが生じている中、金は「地政学リスク」一服による調整安が入っても、インフレリスクと、大幅利上げに伴うFRBの政策ミスリスクの両方に対するヘッジとして、「悪い金利上昇」懸念を背景に、再び買い拾われると見る。リセッションを暗示する逆イールドも発生中。
- 世界各地でドル基軸通貨体制を含む国際秩序の変更を試す動きは継続見通しで、世界の分断が進む中、「安全資産」としての金買いは継続する。夏場にかけて、ドライブシーズンを迎える原油や、天候相場を迎える穀物はいずれも低在庫水準で上値リスクは高いままだ。インフレは夏にかけて高まりを見せるだろう。
- 4月のNY金の月間騰落率は、売り・買いイーブンな時間帯(32戦16勝16敗)。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/4~4/10)

~ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「中国勢は将来に備え、白金を調達し貯蔵しているとの観測もある。白金は燃料電池車(FCV)など脱炭素で有力視されている水素技術に不可欠で、この先は需要が増えるとの予想があるため。安値売込みは避けたい。」としたが、先週のNY白金(7月限)は、原油急落やウクライナの戦闘長期化による景気減速懸念が圧迫要因となり、957.4ドル(3/29安値)まで続落したが、金堅調やインフレ懸念を受けて下げ一服となった。NY株高も一因。

1000ドル維持できず

- 「白金-金」の鞘は、「金買い・白金売り」継続も、バンドウォーク継続となっている。
- 経済産業省は、ロシア・ウクライナ情勢を踏まえ、供給対策が必要な物資として、7品目を特定し、必要な対策についてまとめた。対策が必要な7品目は、石油、石炭(一般炭・原料炭)、液化天然ガス(LNG)、半導体製造プロセス用ガス、パラジウム(触媒用途等)、合金鉄(ステンレス・鉄鋼製造用)。パラジウムは日本の輸入の43%をロシアが占めている。
- 先週のNY白金(4月限)は、続落。序盤の取引で1004.2ドルまで反発したが、現物相場が1000ドル超えが出来ず、上げ幅を削り、マイナスサイドに軟化した。欧米株価の堅調推移が下支え要因となったが、金の軟調な値動きが足かせとなり、小幅安で引けた。
- CFTC建玉明細(3/29現在)によると大口投機玉は、14,001枚の買い越し。前週(19,815枚の買い越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/4~4/10)

~ 貴金属市場(白金: Platinum) ~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 金同様、3月8日に高値を付けた後は、調整局面入りとなっている。2021年12月安値を起点とした上昇チャネルを割り込み、心理的節目1050ドルが上値抵抗、950ドルが下値支持に変化している。
- ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル(WPIC)によると、ロシアのウクライナ侵攻を受け、自動車触媒は、世界の4割がロシア産のパラジウムから白金へとシフトする動きが加速する可能性。21年の中国の輸入量は輸出量を引いたネットで109トン。中国国内の需要量68トンを超えて40トン強も超過する輸入量。21年の世界の白金需要は、20年比9%減の218トン。対して鉱山採掘やリサイクルなどを合わせた供給量は、21%増の256トンと38トンの供給超過。計算上、中国の輸入量は世界の供給超過分を吸収した格好。

4月の季節傾向は強気

- 白金は燃料電池車(FCV)など脱炭素で有力視される水素技術に不可欠で、需要増予想が強い中、実需筋が在庫手当てに走っている可能性。中国ではガソリン車用排ガス浄化触媒で、高値のパラジウムから安い白金への代替も進んでいる。
- 米欧の対ロ制裁でパラジウムはロシアからの供給に懸念がくすぶる中、排ガス浄化装置について、白金への仕様変更は数年単位の時間がかかると見られるが、西側諸国がロシアへの資源依存を避ける方向に動けば、中国以外でも代替が進む可能性がある。ロシアの白金生産は世界の1割超で、パラジウムより依存度は低い。米先物取引所在庫を引き出す動きも21年夏以降続いており、中国の過剰輸入やロシア問題が長引けば、白金価格を押し上げる可能性がある。
- 4月のNY白金の月間騰落率は、買い方有利な時間帯。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/4~4/10)

~ ゴムRSS3号先物 ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「季節的には、現在ピークのウィンタリング(落葉期=減産期)も、タイのソンクランの水祭り(4月13・14・15日)前後で終了する。原油高や円安主導の上昇相場が故に、月替わりと共に、徐々に戻り売り圧力も高まっていく。ドル円や原油高に調整が入った場合も、追随しそう」とした。先週のRSS3号は、ウクライナ・ロシア間の停戦観測が高まり商品市場全般が軟化する中、売られたものの、中国の総合PMIがロックダウン等の影響により節目の50を下回ったことで政策期待が強まり上海ゴムが上昇した事で、JPXゴムも押し目買い直された。中心限月・先限共に260円台を回復する展開となった。

- 3月31日に中国国家统计局から発表された3月の中国製造業PMIは49.5、非製造業が48.4となり、ともに景況感の境目とされる50を下回った。上海などではロックダウン(都市封鎖)を実施しており、目先、悪い経済指標が続く可能性もある。

【今週見通し・戦略】

- 4月の月間騰落傾向は、売り優勢の時間帯となる。タイなどの生産地は、ウィンタリング(落葉期=減産期)の影響から供給がタイトになっているものの、ウィンタリングは、4月のソンクラン(水祭り)までで、マーケットは減産期明けを織り込む動きとなりやすい。
- ゴムと関連の高い原油市場も、暖房油のピークアウトする時間帯で、米国による追加の戦略備蓄放出もあり、3月高値で目先の高値を見た可能性もある。夏場に向けて、高値更新の可能性は残るものの、足元では下値の限度を試す流れが先行しそうだ。4月上旬の高値は、買い玉の利食い優先、戻り売り対処としたい。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/4~4/10)

~ 穀物市場(大豆・コーン) ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《ロシアによるウクライナ軍事侵攻を受けて油糧種子の供給不安が高まっているが、レーショニング(価格上昇に伴う需要減退)も観測され始めており、3月31日に米農務省(USDA)作付意向面積へ市場の関心は移行する》としたが、先週のシカゴ穀物は、大豆が四半期在庫報告で前年同時期を大幅に上回る在庫が発表され、修正入り。一方、コーンは今年の米国産コーンの作付意向面積が強気の数字となり、22年9月限以降の全限月が一代高値を更新した。

- 先週末のシカゴ穀物は、大豆が続落。コーンがマチマチ。CFTC建玉明細(3/29現在)によると大豆の大口投機玉は、206,469枚の買い越し。前週(218,636枚の買い越し)から縮小。コーンが482,092枚の買い越し。前週(519,356枚の買い越し)から縮小。

■ 付意向面積

大豆: 9095万5000エーカー(事前予想: 8880万9000エーカー)

コーン: 8949万エーカー(事前予想: 9199万5000エーカー)

全小麦: 4735万1000エーカー(事前予想: 4776万エーカー)

【今週見通し・戦略】

- ウクライナの農業団体の会長によると、今年の春播きの穀物の作付面積が前年比30%減、生産高が同40~45%減となる見通し。肥料や燃料不足から大幅減産が懸念されている。
- アルゼンチンではブエノスアイレス近辺で今朝降霜が発生。遅く作付けられたコーンの作柄に対する影響が懸念されている。
- 低在庫率で始まる今年の天候相場は、押し目買い主体の戦略で対処したい。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/4~4/10)

~ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

菊川 弘之

【前週レビュー】



調整入り

- 先週レポートで「NY原油(5月限)は、2021年12月安値~2022年3月高値までの上昇に対する半値押しで下支えられ反発。ここにきて、ロシア・ウクライナ問題に加えて、中東の地政学リスクが浮上している」としたが、先週のNY原油(5月限)は、調整入り。米国が過去最大級の戦略石油備蓄(SPR)放出を発表したことが背景。5月から6ヶ月間に渡り、1日当たり100万バレルを放出し、エネルギー価格の高騰を抑制する。バイデン米大統領によると、国際エネルギー機関(IEA)加盟国も追加で備蓄を取り崩し、3000万~5000万バレルを放出する見通し。
- OPECプラスは、5月の増産目標を日量43万2000バレルとし、これまでの増産ペースを維持。米欧が求める大幅な追加増産を見送ったことが一時買い戻しを誘ったが、中国の新型コロナウイルスの感染防止策が同国の原油需要鈍化につながるとの見方が上値を抑えた。
- 週末のNY原油(5月限)は、続落した。国際エネルギー機関(IEA)は1日、加盟国が石油備蓄を協調放出する方針を決めた。放出量は決まらなかったものの、ロシアの輸出減によるエネルギー需給の逼迫を和らげるとの見方が広がった。
- 原油相場は売り一巡後に下げ渋った。週末の利食いの買い戻しも入りやすく、安値からは下げ幅を縮小して、期近3本以外はプラス引け。
- 米ペーカー・フーズが発表した稼働中の米国の原油掘削装置(リグ)数は533基と、前週から2基増となった。
- CFTC建玉明細(3/29現在)によると大口投機玉は、318,731枚の買い越し。前週(339,969枚の買い越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(4/4~4/10)

~ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- NY原油(5月限)は、2021年12月安値~2022年3月高値までの上昇に対する半値押しで下支えられているが、ネックライン(3/15安値:92.2ドル)と重なる同水準を明確に割り込むと、ダブルトップが意識されテクニカル的な下押し圧力が出るかもしれないが、90ドル割れの安値は、中長期的な買い場探しとなりそうだ。
- NY原油の4月の月間騰落率は、買い方優勢で、戦略石油備蓄(SPR)放出や、イランの核合意復帰観測から調整が入って出る安値は、米ドライブシーズンのピークを迎える夏にかけての買い場となる可能性も。新たな材料が出てこなければ、夏場にかけて、100ドルを挟んだ高値保合がメインシナリオ。
- ウラル原油が市況より30ドル安で取引されるなど、3月から波乱含みの展開となっているが、実務的には、ロシアがウクライナ侵略を開始した2月24日時点では、既に3月の船積み計画は完了していたため、本格的に影響が出てくるのは4月積み以降。
- 3月末、カザフスタン原油の輸出が最悪2カ月間停止されるかもしれないという事態になっており、戦略石油備蓄放出のヘッドラインで下げたものの、既に米国のSPR在庫水準は記録的な低水準(世界の警察官放棄)で、いずれ補填しなければならず、他国の放出量もお付き合い程度の微々たるものになるだろう。
- LNG船上のタンクも、陸上タンクも、マイナス162度以下の液化天然ガスを取めるタンクはすべて、フランスの「Gaztransport and Technigaz」(GTT)社が供給しており、もし同社が当該特殊タンクの供給を止めると、世界中どこにも代替できる会社はない。現段階で、同社は制裁対象外だが、(可能性は極めて低いが)ここにまで手が回ってくると、エネルギー危機感が高まる。

ロシア産減産の影響は4月から本格化

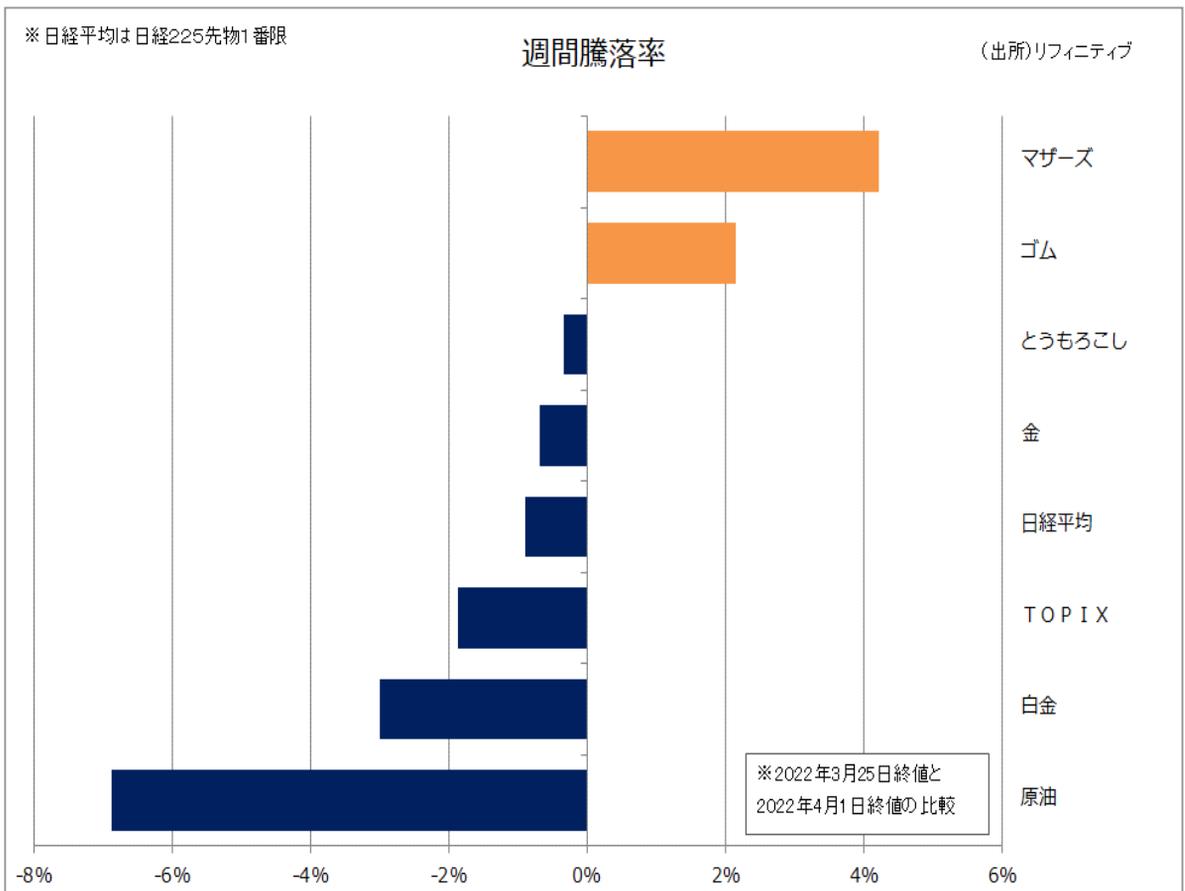
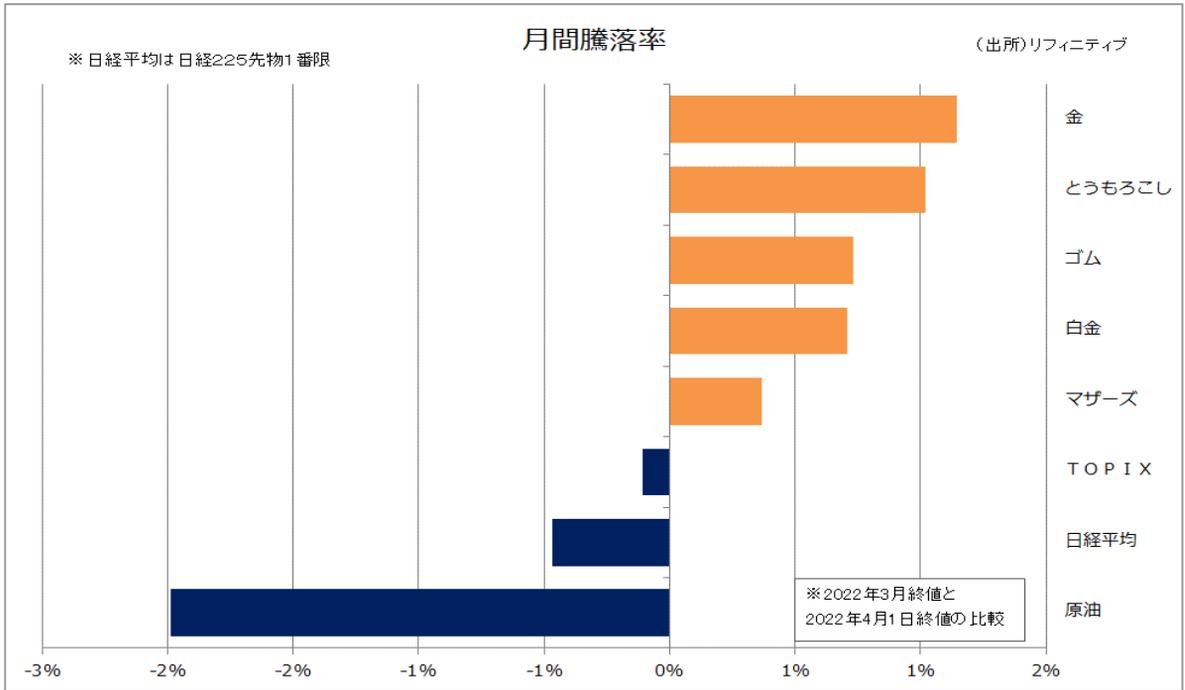
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【週間行事予定(4/4~4/10)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
4月4日(月)	15:00	ドイツ	2月	貿易収支 (EUR) 季調値	9,400 (百万)
	15:00	ドイツ	2月	輸入 (前月比) 季調値	-4.2%
	15:00	ドイツ	2月	輸出 (前月比) 季調値	-2.8%
	15:00	ドイツ	2月	鉱工業受注 (前月比)	1.8%
	17:30	ユーロ圏	4月	ユーロ圏投資家センチメント指数	-7.0
	18:00	ユーロ圏	2月	生産者物価指数 (PPI) (前年比)	30.6%
	23:00	米国	2月	製造業新規受注 (前月比)	1.4%
4月5日(火)	8:30	日本	2月	全世帯消費支出 (前年比)	6.9%
	16:55	ドイツ	3月	S&P グローバル 総合購買担当者景気指数 (PMI) 確定値	54.6
	16:55	ドイツ	3月	S&P グローバル サービス業購買担当者景気指数 (PMI)	55.0
	17:00	ユーロ圏	3月	S&P グローバル 総合購買担当者景気指数 (PMI) 確定値	54.5
	17:00	ユーロ圏	3月	S&P グローバル サービス業購買担当者景気指数 (PMI) 確定値	54.8
	17:30	英国	3月	S&P グローバル/CIPS サービス業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	61.0
	21:30	米国	2月	貿易収支 (USD)	-89.7 (十億)
	22:45	米国	3月	S&P グローバル サービス業購買担当者景気指数 (PMI) 確定値	58.9
22:45	米国	3月	S&P グローバル 総合購買担当者景気指数 (PMI) 確定値	58.5	
23:00	米国	3月	ISM 非製造業総合指数	56.5	
4月6日(水)	10:45	中国	3月	財新 サービス業購買担当者景気指数 (PMI)	50.2
	17:30	英国	3月	マークイット / CIPS 建設業購買担当者景気指数 (PMI)	59.1
	18:00	ユーロ圏	2月	小売売上高 (前年比)	7.8%
4月7日(木)	15:00	ドイツ	2月	鉱工業生産 (前月比)	2.7%
	15:00	英国	3月	ハリファックス住宅価格 (前月比)	0.5%
	21:30	米国	3月28日, 週次	新規失業保険申請件数	
	21:30	米国	3月21日, 週次	継続失業保険受給総数	
4月8日(金)	1:00	米国	---	USDA需給報告	
	4:00	米国	2月	消費者信用残高	6.84 (十億)
	8:50	日本	2月	経常収支	-398,800 (百万)
	23:00	米国	2月	卸売在庫 (前月比)	2.1%
	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細	
4月9日(土)	9:01	英国	3月	RICS 住宅価格指数	
4月10日(日)					

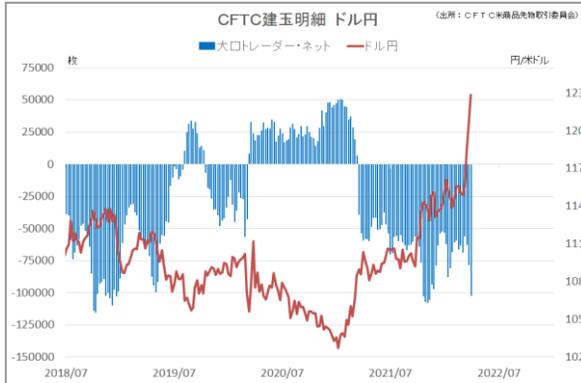
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(月間・週間)】

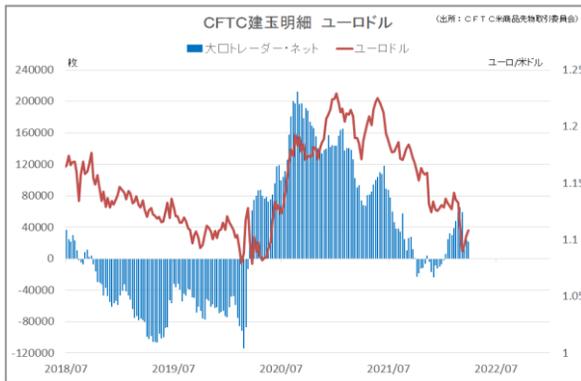


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

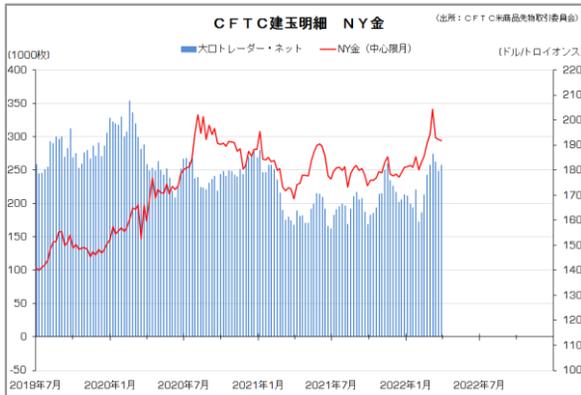
【CFTC建玉明細】



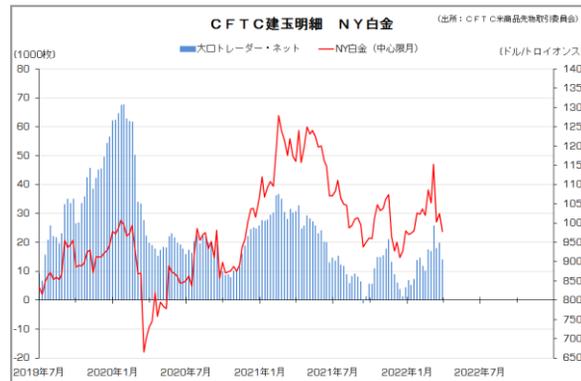
ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/1	14,665	83,397	-68,732	114.89
2022/3/8	15,548	71,404	-55,856	115.66
2022/3/15	34,016	96,356	-62,340	118.28
2022/3/22	36,676	115,158	-78,482	120.8
2022/3/29	15,274	117,405	-102,131	122.84
前週比	-21,402	2,247	-23,649	2.04



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/1	228,385	163,446	64,939	1.1126
2022/3/8	242,683	183,839	58,844	1.0899
2022/3/15	202,040	183,246	18,794	1.0951
2022/3/22	207,051	183,208	23,843	1.1027
2022/3/29	200,043	178,669	21,374	1.1085
前週比	-7,008	-4,539	-2,469	0.0058



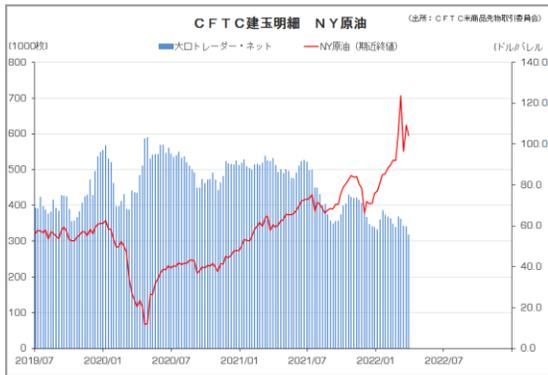
NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/1	354,177	96,555	257,622	1943.8
2022/3/8	364,618	90,230	274,388	2043.3
2022/3/15	346,731	84,943	261,788	1929.7
2022/3/22	328,660	80,628	248,032	1921.5
2022/3/29	327,632	70,036	257,596	1918.0
前週比	-1,028	-10,592	9,564	-3.5



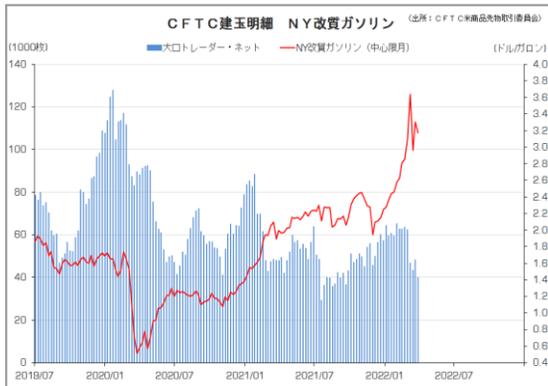
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/1	33,902	17,012	16,890	1051.9
2022/3/8	41,758	15,925	25,833	1153.2
2022/3/15	33,833	15,901	17,932	1002.5
2022/3/22	32,184	12,369	19,815	1025.1
2022/3/29	29,585	15,584	14,001	978.8
前週比	-2,599	3,215	-5,814	-46.3

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

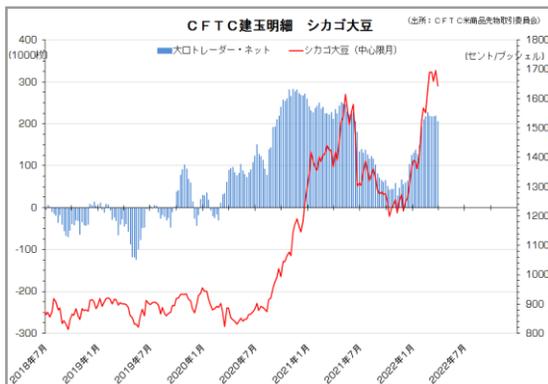
【CFTC建玉明細】



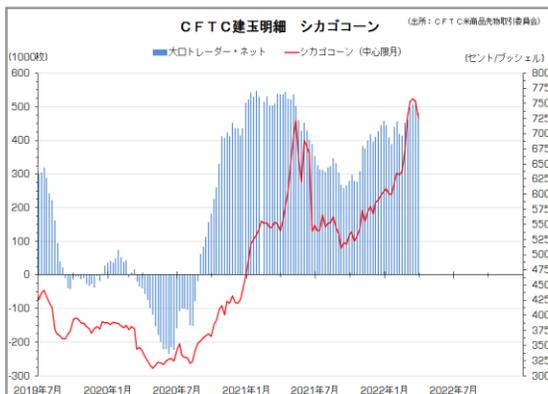
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/1	465,365	96,702	368,663	103.41
2022/3/8	455,339	93,674	361,665	123.70
2022/3/15	444,601	102,786	341,815	96.44
2022/3/22	436,560	96,591	339,969	109.27
2022/3/29	420,097	101,366	318,731	104.24
前週比	-16,463	4,775	-21,238	-5.03



NY改質ガソリン				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/1	97,185	34,742	62,443	3.0887
2022/3/8	82,887	35,987	46,900	3.6392
2022/3/15	76,383	32,781	43,602	2.9657
2022/3/22	78,644	30,274	48,370	3.3046
2022/3/29	74,554	34,352	40,202	3.1767
前週比	-4,090	4,078	-8,168	-0.1279



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/1	264,899	45,992	218,907	1690.00
2022/3/8	263,044	46,467	216,577	1689.75
2022/3/15	265,949	48,350	217,599	1658.75
2022/3/22	265,191	46,555	218,636	1696.50
2022/3/29	253,726	47,257	206,469	1643.00
前週比	-11,465	702	-12,167	-53.50



シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/3/1	531,633	70,695	460,938	725.75
2022/3/8	558,302	60,269	498,033	753.00
2022/3/15	571,419	64,213	507,206	758.00
2022/3/22	582,844	63,488	519,356	753.00
2022/3/29	552,536	70,444	482,092	726.25
前週比	-30,308	6,956	-37,264	-26.75

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

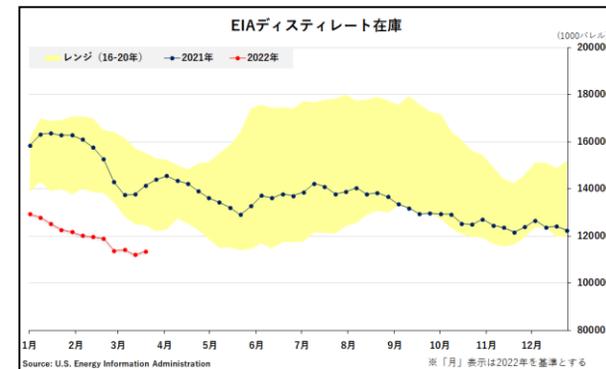
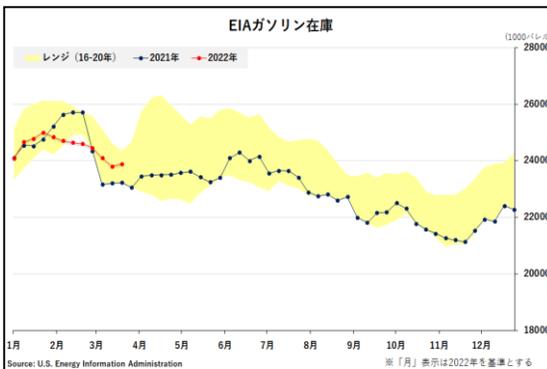
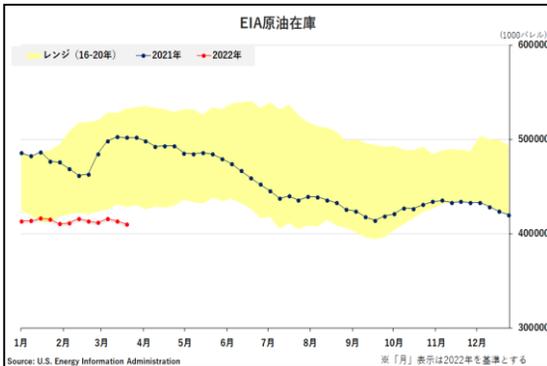


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/4/1	1091.73	+0.29
2022/3/31	1091.44	±0
2022/3/30	1091.44	±0
2022/3/29	1091.44	-1.74
2022/3/28	1093.18	±0
2022/3/25	1093.18	+5.52
2022/3/24	1087.66	±0



日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/4/1	75,496.62	-0.12
2022/3/31	75,496.75	±0
2022/3/30	75,496.75	-33.84
2022/3/29	75,530.59	-278.69
2022/3/28	75,809.28	-0.09
2022/3/25	75,809.37	-13.53
2022/3/24	75,822.90	-0.28

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に十全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社（〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。